

短刀 銘 備前國長船源兵衛尉祐定／元龜元年八月吉日

刃長 262mm 反り 2.1mm 元巾 24.6mm 元重 7.6mm

両刃造り、身幅やや広く、ふくら枯れて、先反りこころ強く、寸伸びる。鍛え板目肌よくつんで流れ、裏は肌立ち加減となり、細やかな地沸ついて地景入る。

刃文は焼き幅広く、起伏の浅い小湾れに互の目を交え、足、葉がしきりに入り、小沸が刃中によく働いて金筋、長い砂流しが数条の縞状に掛かる。棟側表は腰開き調となり、裏は頭の揃った小互の目。飛焼き、沸凝りがあった結果、皆焼状となる。帽子は火焰状に激しく掃き掛け。

茎、生ぶ。上身に比してコミやや短く、鑓目は勝手下り、茎先刃上がり栗尻。

